

## JAL闘争を支える京都の会News No.93

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

# 新証拠！ 解雇は必要なかった！ 削減目標人数の超過達成が明らかに！

2023年4月11日、大手筋商店街（京都市伏見区）でJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「自立労連」、「連帯ユニオン関生支部」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドリーダー・基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、計15人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL被解雇者労働組合（JHU）副委員長の小栗純子さんが参加しました。

小栗さんは「私は2010年の大晦日に日本航空を解雇されたパイロット81名、客室乗務員84名、計165名のうちの一人です。2010年1月JALは経営破綻した。そしてその経営破綻を再生するために日本航空に送られてきた更生管財人という方たちが立

てた更生計画によって日本航空は再生のために事業を小さくし、そのために必要がなくなったとして何とグループで1万6千人も削減することになった。希望退職等でやめてほしいと肩たたきにあった。その中で納得がいけないということで最後の最後まで希望退職に応じな



かったパイロットと客室乗務員、165名が解雇された。それが私たちの解雇であった。しかしその削減目標数は明らかになっていたが、私たちは解雇された後、一体何名の在籍者が残っていたのか、何人の方たちが希望退職に応じ、最終的に何人のパイロット・客室乗務員が残ったのかということについては、これまで13年間明らかにされたことはなかった。私たちは削減目標を超過達成していたということは裁判でも訴えた。しかしJAL側は何人とまでは言えないと切り捨

て、そして解雇の4年後に何名の人員が残っていたのかということについて国会で議員が追及したが、国土交通省までが何人が残っていたかは日本航空が明らかにすることはできないと言っていると日本航空をかばい、国会の場でも私たちが求めていた数字は明らかにされなかった。ところが日本航空が定例で国土交通省に提出していた安全報告書という文書の中に



私たちが解雇された後の3ヶ月後の2011年3月31日に何人在籍していたのかということが記載されているのがみつきり、やっと明らかになった。その数字によるとやはりパイロットも客室乗務員も削減目標数を超過達成していた。両方合わせて735名もの人員が超過達成していたにもかかわらず、私たち165名は解雇された。本当に納得がいかない。私たちの解雇は必要なかったということ、この13年間私たちが訴え続けていたことがやっと正しかったこと、それがその数字によって明白になった。刑事裁判のように新たな証拠が出てきたからといって、民事裁判を再度争うことは難しいと言われているが、この事実を皆さんに知っていただいて1日も早くこの争議を解決するようにがんばっていきたいと思っている。ご通行中の皆さん、ビラをお読みになって応援してください。」と訴えました。



## 23春闘勝利！ 京都総決起集会で JAL争議団がアピール

3月25日、「ユニオンネットワーク・京都」の主催で「23春闘勝利！京都総決起集会」が開かれました。乗員（パイロット）争議団の和波さんがアピールされ、和波さんが「最近、JALが自衛隊員を載せている場合が多くなっている。以前、職場にいたときはJALの軍事利用に反対する運動をしていた。職場に戻ってまたその運動をやりたい。」と発言すると会場から拍手がおこりました。



**和波さんの参加報告**（JAL 不当解雇撤回争議団のFBから）  
ユニオンネットワーク京都主催の23春闘決起集会に参加させていただきました。

基調講演で以下のようなことを学びました。

「今春闘の最重点要求は『賃上げ』であり、昨今の労使協調型組合の掲げた賃上げ要求では全く物価高に対応できず、メディアではそれを上回る満額回答が出ている状況が報じられているが、大企業ばかりであり、その回答水準を持ってしても物価高を補うには不足である。軍拡ではなく、賃金底上げが必要である。最低賃金を1500円に引き上げることが労働運動の力の柱となる。」

会場とデモ行進中にJAL争議を訴えることができました。みなさま、ありがとうございました！

次回 宣伝行動（呼びかけ JAL闘争を支える京都の会）  
5月9日（火） 午後2時～3時 伏見・大手筋商店街